

写真展 『草木の聲』^{こえ}

色の生まれるところ



「臭木」

植物の色彩世界を紡ぐ女性、 その色の息吹を写す女性。

人間国宝・染織家志村ふくみ氏の芸術精神と技術を継承する染織ブランド「アトリエシムラ」。絹糸を草木の自然染料で染め、機(はた)にかけて、織り上げる。自然に寄り添い、その聲を聞くアトリエシムラの手仕事の光景約30点を、志村昌司さんが選んだふくみさんの詞(ことば)と共に展示します。世代を超えた継承のかたち、その美しい一例を、昨年オープンした「山根記念ギャラリー」にてご覧ください。

写真家 田口葉子(たぐちようこ)

1975年生まれ。大学進学以来、京都に暮らす。写真家井上隆雄氏に師事。京都を中心に日本の気配を撮り続け、雑誌、新聞、書籍などで写真や文章を発信している。日本写真家協会会員。嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学非常勤講師。

協力：アトリエシムラ(特別展示)
THE KYOTO

【会場】

津田塾大学 津田梅子記念交流館
山根記念ギャラリー

【会期】

2023年
6月1日(木)～23日(金)
※土曜・日曜を除く。ただし、
6月3日(土)・17日(土)は開館します。
9:00～16:30

●ギャラリートーク●

アトリエシムラ代表 写真家
志村昌司 × 田口葉子
6月1日(木) 13:30～15:00
津田塾大学 津田梅子記念交流館
チャペルにて開催

詳細は津田塾大学公式
ウェブサイトをご確認
ください。

<https://www.tsuda.ac.jp/>



人間国宝・染織家志村ふくみは大正13年に生まれ、与謝野晶子や富本一枝ら女性運動の息吹を感じながら染織の道に進み、草木染めと紬織を通して独自の美を創造してきました。彼女の芸術性もさることながら、その人生は「自由で独立した個人としての女性」としての生き方を考える上で、今もなお非常に示唆に富むものです。

本学では、2018年に新作能「沖宮」(原作 石牟礼道子、衣装監修 志村ふくみ)に関連して、特別講義シリーズ「ことばと心は越境する — 『翻訳』が描く新たな風景」、2020年には『インディゴを探して』に関連したオンライン講演会「芸術が海を渡るとき」など、継続して志村ふくみに関連した学びが展開されています。

フォトエッセイ『草木の聲』(京都新聞出版センター)は、志村ふくみの詞(ことば)を手がかりに、京都を拠点に活躍する写真家・田口葉子の彩り豊かな写真とともに、志村ふくみの孫である志村昌司が染織への思いを綴っています。志村ふくみの芸術精神の次世代の継承のかたちの一つが、この本に集約されています。

植物の色彩世界の美しさと、その背景にある生き方と思想に思いを馳せていただければ幸いです。



「藍染の糸たち」



着物「桜会」

“その「色」は想像を超え、
絶えず変化し、まるで生き物を
撮っているみたいでした。”

写真家 田口葉子のとらえた色彩世界

津田塾大学 津田梅子記念交流館

[住所] 〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1

[お問い合わせ] 津田塾大学経営企画課
電話番号:042-342-5146

メールアドレス:senryaku@tsuda.ac.jp

[アクセス] ご来訪の際は公共交通機関をご利用ください。
西武国分寺線「鷹の台」駅より徒歩約 8分
JR武蔵野線「新小平」駅より徒歩約18分